

～家庭菜園～

石川 秀樹



“猫の額”より狭い我が家の農場より、平成28年度の収穫は、たまねぎ105個、ピーマン少々、ナス6個、ししとう18個、きゅうり1本、とうがらし5個、鳴門金時2Kg、安納芋3Kg、紅吾妻2Kg等が採れました。

いずれも私は、食べるだけで一切手伝っていませんが、妻と妻の母が世話をして、食卓に並びました。大きく育った野菜に「感謝」しつつ、今期は冬の寒い日には、玉ねぎの肥料でもしようかと案じています。



私のつぶやき

～お正月を迎えて～

横田 憲一



2017年新たな年の始まりです。皆様はお正月をいかがお過ごしでしたか？我が家は、久しぶりに子供たち(二人)も揃って、少しの間、特別な時間を過ごすことが出来ました。それにしても、お餅は昔ほど食べなくなりました。おせち料理にしてもそうですね。お寿司やお肉料理はすぐに無くなるのですが、煮物・干物などは、しばらく食卓に並ぶようです。



街へ出てみると開いているお店も多く、スーパーや電気店、ドラッグストアなどは、お正月用の福袋や特別セールを実施しており、かなり賑わっています。ひと頃の静かな益田の雰囲気ではないように思います。それでは、本年も皆さまが健康で、幸せな一年でありますように。

✿ 1～3月の税務・お知らせ ✿

- ・1月・・・源泉所得税の納付
支払調書・合計表の作成
固定資産税の償却資産に関する申告
- ・2, 3月・・・28年分所得税の確定申告
(2月16日から3月15日)
28年分贈与税の申告

お休みカレンダー

2017年 1月							2017年 2月							2017年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4				1	2	3
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28					26	27	28	29	30	31	

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にしま
※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vo1. 31
冬号
2017年1月



平成28年1月撮影：津和野町

平成29年1月4日にコメディ・クラウン・サーカスを開催いたしました(^O^)/



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>



代表取締役
安野 広明

こんにちは、安野広明です。新年、明けましておめでとうございます！
今年は酉年。「酉」のつく年は、「運氣もお客も取り(＝トリ)込める」ということ
で、商売繁盛につながるそうです。
2017年は、飛躍の年にして参りましょう！

さて、ニュースレター「かけはし」が月刊誌から季刊誌へと変わり、今回は記念すべき第1号(冬号)です。今後は、3ヶ月に1回のペースで発行いたしますので、引き続きお付き合いのほど、どうぞよろしくお願いいたします！



「人生という大海を漂流しないために」



もしも、いま、1人で過ごせる自由時間を1時間与えられたとしたら、どんなことをして過ごすでしょうか？
小説やビジネス本を読む人、漫画や雑誌を読む人、スマホでゲームをする人、ネットサーフィンをする人、運動を始める人、音楽を聴く人など、人によって多種多様だと思います。
おそらく、その人の趣味や日頃の習慣が色濃く反映されるでしょう。

また、将来の自分の目標(orありたい姿)を思い描けている人といない人とは、行動パターンが大きく異なってくるような気がします。

何も目標を持たない人には、「いま」しか見えません。
したがって、あたかも大海を彷徨う小舟のごとく、どこへ向かえばよいのか、何をすべきなのかが分からず、結局、楽な方(上記で言えば、スマホゲーム等の娯楽系)に流されてしまいます。

これに対して明確な目標を持つ人は、「いま」だけではなく、「将来」に目が向きます。
そのため、行きたい方向に船を漕ぎ出すことができ、それが時間の使い方にも現れるはずです。

とはいえ、日々忙しく生活している中で、「1時間の自由時間なんて、なかなか捻出できない・・・」と感ぜられるかもしれません。
確かに、まとまった時間として確保するのは難しいと思います。しかし、10分～20分の細切れの時間をまとめるという発想であれば、どうでしょう？
きっと、積み上げていくと、1時間くらいにはなるのではないのでしょうか。

そういう意味では、ふとした時間や細切れの時間に、どんな時間の使い方をしているのか？が大切になってきます。
そして、こちらも同様に、目標がある人と無い人とは、行動は変わるはず。
一方は目標に向かって船を漕ぎ続け、もう一方はどこに行くともなく漂い続けている訳ですので、時間が経てば経つほど行動や成果に歴然とした差が生まれるでしょう。

もちろん、「いま・ここ」を大事に生きることがなにより重要ではありますが、ただそうは言っても、目標(行き先)が無ければ人生を漂流することにもなりかねませんので(汗)、「個人としての目標(ありたい将来の姿)」は常に思い描いておきたいものです。

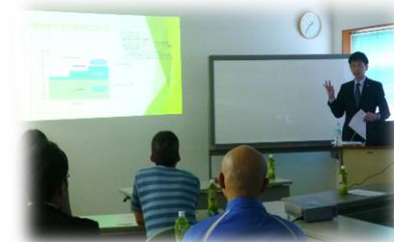
年の初めに、目標設定し直してみてもよいかもしれませんね。

10月のセミナー

平成28年10月26日(水)に、いわみマネークリニック(株)、細川 豪 氏を講師としてお招きし、マネーセミナーを開催致しました。

今回のセミナーは、マイナス金利が続く中どうしたら無理なく、少しでも豊かに暮らせるかを教えて頂きました。
細川先生の話の中で、“コツコツと続ける”と言われていた点がとても印象に残りました。また、金融商品(投資信託)の目論見書の見方や今後の展望の話もありました。
今後は投資信託を購入する際の指標として目論見書の活用・情報の収集を積極的に行っていきたいと思います。
今回のセミナーを踏まえて29年1月から制度が変わる確定拠出等を今後準備して頂きたいと思います。

担当:永戸



11月のセミナー

平成28年11月24日(木)に、さくらクリニック益田の院長、篠崎克也先生を講師としてお招きし、ストレスセミナーを開催致しました。
今回のセミナーは、ストレスの多い時代において、ストレスに負けない元気な暮らしを送るにはどうしたらよいのかという課題がテーマでした。

健康は心も身体も元気であることが大事だけれども、身体が病気だからといって、不健康であるわけではない。生活していく中では、心の健康を保っていくことがとても大事なことだというお話をされました。ストレスは、天候や騒音、回りの環境、アルコールやタバコ、薬などによっても引き起こされるし、体調などもその原因になるとのことです。その他にも、家族や友人、職場の人間関係などあらゆる場所で引き起こされる可能性があるわけで、そもそもストレスから逃げようとしても無理なわけです。「ストレスは、まったくないよりも、少しあった方がいい」ということでした。
逆に健康にプラスに働くことがあるそうなのです。どうしてもネガティブな気持ちが起きてくるのですが、先生からは、ポジティブ:ネガティブは3:1で気持ちを切り替えていきましょうと教えていただきました。

運動やバランスのよい食事をとることも大事で、職場を退いても、何らかの社会参加をしていくことが大切との事でした。今日はたくさんの事例と対処法をおしえていただきましたので、衣食住の中で、現在自分がすぐできることから実践してみようと思います。

担当:横田



今月の本の紹介



『道化師流「コミュニケーション」と「サービス」』 著者:大棟 耕介

日本では、道化師といえばピエロという印象がありますが、サーカスでお目にかかるピエロは、演技の役柄の一つだということです。クラウン(道化師)は海外では一目置かれる、アーティストとしてステイタスのある仕事になっています。なぜならクラウンはサーカスで他のどんなアーティスト達よりも観客の事を第一に考える、そんな役割を果たしているからなのだそうです。

クラウンのパフォーマンスは、あくまで相手との距離を縮めたり、場の空気を温かく優しいものに変えるためにあります。この本は、そんな「クラウンマインド」を基本として、「コミュニケーションのとり方」や「サービス」についての考え方、「心からの感謝の気持ちをきちんと伝える方法」について、たくさんの事例をもとに解説してあります。お客様に寄り添い、誰もが幸せな気持ちになれるようなパフォーマンスの中に、日本でいう「おもてなしの心」と相通じるものを見出すことができます。

横田 憲一



「逆境に対する“反応差”が運命を分ける」



日本がまだ鎖国していた幕末(1853年)に、ペリー提督率いる黒船が浦賀に来航した際、恐れおののく者、興味関心を示す者、(吉田松陰のように)黒船に乗り込もうとする者など、当時の日本人の反応は様々だったそうです。

その中でも特筆すべきは、黒船と同じものを自力で造ろうと考えた、島津の薩摩藩、鍋島の佐賀藩、伊達の伊予宇和島藩の三藩。

しかもそれらの藩は、わずかの期間で本当に蒸気で動く船を造ってしまいました。

ではなぜ、そんなことを成し遂げることができたのか？

この点、当時の日本人の知的レベルが高かったのはもちろんのこと、その根底には、「異人にできて、自分たちにできないはずがない！」という自信や気概、日本人としての誇りがあったのではないかと思います。

見たこともない巨大な蒸気船が突如として現われた訳ですので、「こんな相手に敵うはずない…」と早々に諦めてもおかしくありません。(そのように考えた人もいたとは思いますが)

しかし、そんな時に、リーダー的立場にある人(＝殿様)が、「われわれにできないはずはない！」という気概を持ち、指示をした。

そういった反応を示せたことが、その後の日本の運命を分けたのかもしれない。

そして、この、「できないはずがない」と「できるはずはない」という反応の差は、現代を生きる自分や自社に置き換えた場合にも、(長い目で見れば)人生や運命に多大なる影響を及ぼす気がします。

あたかも黒船のごとき(！?)難題や逆境が突如目の前に現れた際、どういった反応を示すのか？

「自分にできないはずがない！」と信じて挑戦するか、はたまた「自分なんかにはできるはずはない…」と早々に諦めるのかによって、そこから得られる成果(＝経験等)は違ってくるのではないのでしょうか。

自分で運命を切り拓くためには、(別に根拠は無くてもよいので)
「自分(または自社)にできないはずがない！」という気概が必要不可欠。

そのように考えています。



「何を意識(＝検索)するかによって、集まる情報も変わる」



インターネットで検索する際、プラスのキーワードを入力すればプラスの検索結果が、マイナスのキーワードを入力すればマイナスの検索結果が出てくると同様に、人は、自分が意識した方の情報しか取りに行かないという心理的側面を有しています。

例えば、人と会う時に、美点凝視するのか、それとも汚点(！?)凝視するのか。

美点凝視を意識していれば、相手の優れたところや相手から学べることに気付くことができますが、汚点凝視を意識していると、相手の嫌なところや足りない点ばかりに目が行くことでしょう。

どちらの方が良好な人間関係を築き、そして出会いを活かすことができるかは、一目瞭然。

したがって、常日頃から自分が何を意識しているのか、どういったことにアンテナを立てているのかは、とても重要です。

また、意識のアンテナの感度を高めておくと、気付く力が強化されるためか、普段の生活の中で求めずして思わぬ発見をすることがあります。

私は何度も経験してますが、例えば、マネジメントに対する意識のアンテナが立っている時に、本屋で何となく手にした本の中にそのものズバリの答えが書いてあったり、たまたま出会った人のお話の中から重要なヒントが得られたり、などといった感じです。

実はこれは、ただの偶然ではなく、セレンディピティ(＝計画的偶然性)という現象なのだそうです。このようにして意識のアンテナを立てることで、それに関連した情報を自然と引き寄せることができるでしょう。

とはいえ、人の意識というのは、放っておけばあっという間に凝り固まり、アンテナの感度が鈍るもの。したがって、自分の意識に刺激を与えるべく、常に学び続ける必要があると考えています。

少なくとも、脳内にマイナスの検索ワード(＝意識)を入力しないよう、心がけたいものです。

＜安野からのおすすめコーナー＞

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画を紹介いたします。何かの参考にしていただけると幸いです。

▶▶ 漫画「人生に迷ったら知覧に行け」(永松茂久 原作、今谷鉄柱 画)

昨年末、弊社で主催している「次世代リーダーの会」のメンバー数名を連れて、鹿児島県の知覧町を訪れました。戦時中、沖縄戦の本土最南端基地として、最も多くの特攻隊員が飛び立った知覧。そこへ訪れることの意味を、漫画で分かりやすく読むことができます。

▶▶ ビジネス書「スマホの5分で人生は変わる」(小山竜央 著)

現代人の多くは1日2～3時間はスマホに接しているそうです。これを年間に換算すると、30～45日。なんと、1年のうち1ヵ月以上スマホに時間を費やしている計算になります。このままでいいのでしょうか！？スマホとの付き合い方を考えさせられる一冊です。

▶▶ 小説「花神」(司馬遼太郎 著)

日本近代兵制の創始者大村益次郎の生涯を描いた小説です。長編歴史小説なので、読むのに時間がかかりますが、石州口の戦い(益田戦争)のあたりは、けっこう興奮します(笑)。まだ読まれたことの無い方は、幕末と地元の歴史に興味を持つ、よいきっかけになるかもしれません。

▶▶ 映画「生きる」

言わずと知れた、黒澤明監督の名作です。現在の映画のような派手さはまったくありませんが、見終わった後には、志村喬演じる主人公の姿と共に、生きることの意味を深く考えさせられる、そんな作品です。